

## 第二回新潟大学留学生アンケート調査によせて

### The Survey on the International Students in Niigata University

柴田 幹夫\*

(shibata@isc.niigata-u.ac.jp)

---

This paper is a summary of the survey on the international students in Niigata University conducted in 2005. Based on the results of the survey, suggestions and implications were made for further improving the learning environment for the students.

---

#### アンケート調査の概要

##### 1 目的

新潟大学に在籍する外国人留学生の勉学・研究および日常生活状況を把握することにより、留学生に対する福利厚生、修学支援、授業、研究環境、課外活動などの現状を改善することを目的とする。

##### 2 調査対象

留学生全員（420名）平成17年度1月末現在在籍の留学生。

##### 3 調査方法

平成17年1月24日に留学生全員にアンケート（①留学生自身について②日本語について③研究について④チューター制度について⑤留学生活について〈住居、健康、アルバイト、奨学金などを含む〉という五つの柱を中心にして）を日本語、英語、中国語及び韓国語で作成した）を郵便で届けられた住所に送付し、アンケートに回答してもらい、同封した返信用封書に入れて、2月4日締めきりで、ポストに投函してもらった。

##### 4 回答者数

168名（40%）

#### アンケート集計について

##### I 本人について

###### 1-1 出身国

回答者は実に168名に達した。この数は留学生総数の40%に及ぶものである。数年間に実施した同様のアンケート調査では回答者数78名であり、25%であった。以前行ったアンケー

---

\* 新潟大学国際センター 助教授

トは項目が多くて、なおかつすべて日本語であり、留学生にとっては答えにくかったものと思われる。さらに各部局を通じて配布回収したので、提出しなくてもいいと思ったのではない。今回各自郵送という形をとったので、多く回収できたと思っている。忙しい中、丁寧に回答してくれた留学生に感謝したい。

回答者の出身国は25カ国で、アジアが89%にも達し、国別では中国が84名、50%の回答者があった。次いで韓国12名、7%、マレーシア10名、6%と続いた。新潟大学に留学している学生の出身国のほとんどがアジア諸国であるので当然の答えであろう。

#### 1-2 男女比

男女比についてはほぼ同数であった。

#### 1-3 年齢

いわゆる日本で言う一般的な大学生の年齢に当たる留学生はわずか6名しかおらず、留学生の年齢構成はかなり高いものであることがわかった。これは新潟大学の留学生のほとんどが大学院生であるからである。

#### 1-4 留学経験

大部分の学生は、日本への留学経験は初めてである。

#### 1-5 滞在年数

日本での滞在年数であるが、一年未満の学生と四年以上の学生が同数であった。

#### 1-6 学部別 費用

学部生は62名（工学部11名、経済学部16名、以下法学部11名と続く）で、大学院生は100名（医歯学総合研究科35名、自然科学研究科29名、以下現代社会文化研究科20名と続く）である。

私費留学生は75名で、国費及び国費に準ずる公的な外国政府派遣、新潟県費派遣留学生は77名にも及んだ。今回の回答者のおよ半数は国費及び公的な奨学金をもらっている留学生からであった。比較的恵まれている彼らからの回答から留学生の生活や勉強ぶりを考えるのは危険である。本来ならば私費留学生の多くから回答を寄せていただきかった。

## II 言語について

#### 2-1 言語使用

日本が話せば使いたいという学生と日本にいるから日本語を使った方がいいという学生が比較的多く、日本語がわからなくてもいいという学生はほとんどいなかった。ただ、研究、勉強に際して、英語がいいという学生も少なからずいた。

#### 2-2 日本語の必要性

日本語が必要かという設問であるが、テレビを見るときは一番多く、次いで授業や発表の時、試験、先生からの指導、教科書や論文を読む時と続いている。

#### 2-3 省略

#### 2-4 日本語を勉強してるか

91名の学生が今も日本語を継続して勉強しているが、64名もの学生は今は勉強していないと答えている。その理由として、専門の勉強は忙しいからが一番多かった。また勉強及び研

究に日本語が必要ないという答えも多かった。十分な日本語を話せるから必要がない学生もいた。

日本語の学習方法としては、国際センターの日本語クラスで勉強していると答えた学生が一番多く、次いで自分で勉強しているが続いている。

### Ⅲ 人間関係について

#### 3-1 指導教員

指導教員とどのくらい会っていますかという設問であるが、意外にも毎日会うという学生はいなかった。週に一回が38%、週に二回が34%であった。三ヶ月に一回やほとんど会わない学生もそれぞれ8%もいた。

#### 3-2 指導について

ほとんどの学生が研究上の指導を受けていて、62%にも達している。又生活上の相談に行く学生は19%である。その反面、何もしてくれない指導教授は7%もいた。留学生とほとんど会わない、指導しない教員がいるとは驚きである。

#### 3-3 自由意見

#### 3-4 チューター

チューターはいると答えた学生は66名で80名の学生はいないと答えた。チューターが何をしてくれるかということについては、生活上の相談と、研究上の指導がそれぞれ27%を占める。ついで日本語の指導が23%、何もしてくれないと答えたのは、15%もいた。チューターには謝金が報酬として支払われているのに、何もしないとはどういうことだろうか。

必要か否かと言うことについては、必要でないと答えたのが一番多かった。又チューター制度そのものを知らない留学生も多くいた。

#### 3-5 自由意見

#### 3-6 日本人の友人

日本人の友人がいると答えた留学生は84名でいないと答えた学生は75名いた。おおよそ半分の留学生は日本人の友人がいらないということになる。同じ国の留学生同士が固まっている姿が目につかんでくる。

知り合ったきっかけの多くは、研究室が同じであるとか、同じ授業、同じゼミ、アルバイトが同じであるという回答が続いた。友人とどんなことをしているかという質問では、日常会話を交わす程度がおおく、次いで一緒に食事したり、遊んだりしている学生も多い。又日本語を教えてもらっている留学生も多かった。

#### 3-7 自由意見

### Ⅳ 新潟大学での留学生活について

#### 4-1 現在の住所

五十嵐、大学南、内野地区に住んでいる留学生が69%、また旭町地域に住んでいると思われる学生も21%いた。概して大学の近隣に住居を持つ学生が多かった。

#### 4-2 住居形態

キッチン・バス付きのアパートやマンションに住んでいる学生が56%もいた。国際交流会館や学生寮に住んでいる留学生もそれぞれ12%、10%いた。ホームステイしている学生はいなかった。

#### 4-3 学生寮・国際交流会館

学生寮・国際交流会館への入居希望者は115名にもおよび、入居希望者が多いことを物語っている。その理由としては、第一に安いからということであった。又近いと言うことや、多くの友人と知り合えるからという答えも多かった。学生寮・国際交流会館は安く入居できるということと、そこで多くの学生と交流できるというメリットがあるように思える。本学の学生寮・国際交流会館は留学生全員が入居できるにはほど遠い施設であるが、留学生が入居したいという希望があるということを考えるべきであろう。

#### 4-4 住居の斡旋

すぐに住みたいアパートなどが見つかりましたか、という設問では、はいと答えたのが、46%で、いいえと答えたのが13%であり、時間がかかったと答えたのが44%であった。

#### 4-5 保証人問題

すぐに探し得ない理由としては、保証人がなかなか見つからないことがあげられよう。指導教員が保証人になっていると答えたのは52%であり、他の教員や日本人の友人に依頼して保証人になってもらっている留学生も多くいる。

国際センターでは以前に機関保証ということを検討したことがあったが、指導教員にとってはやはり頭の痛い問題であろう。

#### 4-6 通学方法

通学方法はやはり留学生の多くが大学の近くに住んでいるせいか、徒歩と自転車で通学しているというのがほとんどである。両方合わせて実に88%にも及ぶ。

#### 4-7 通学時間

上記の問いに呼応するかのように、やはり通学時間は15分以内と答えたものは122名、79%であった。人数的には非常に少ないが、一時間以上かけて通学している学生もいた。

#### 4-8 平均収入

1ヶ月の平均収入であるが、10万以上と答えた学生は多く、68名いた。ただ5万円以下の学生も41名であった。今回答えてくれた留学生は1-6で回答のあったように国費及び国費に準ずる学生が多く、大多数を占める私費留学生からの回答は少なかった。従って実際には留学生の収入はもっと少ないものであらうと思われる。

#### 4-9 平均支出

4-8の項で見られたように、収入が多いので、当然支出も多くなる。5万以上と答えたのは124名、84%である。5万円以下と答えた学生もいるし、3万円以下と答えた学生もいた。苦学生という言葉は今や日本の学生の中では余り聞かないが、留学生の中では、まだ苦学生という言葉は生きている。

#### 4-10 アルバイト経験

アルバイトをしたことがない留学生の方が多かった。約半数がアルバイトを経験していない。何回も言うが、国費及び国費に準ずる学生が多いからであろう。かなり恵まれた留学生たちであろう。ただ理系や医歯学系の学生は実験や実習などでアルバイトどころではないかも知れない。アルバイトの効用については、ただお金を儲けると言うだけでなく、日本人や、日本社会を了解する上でも、留学生にとっては有益なものとなり得ることだろう。

アルバイトの職種については、サービス業が最も多く、約半数を占めている。紹介先は知り合い或いは自分で探すというのが多かった。大学で紹介を受けるというのはわずか12名だけであった。本学の学生課によるアルバイト紹介では、留学生不可となっているものもあり、留学生にとっては厳しいものとなっている。何とか改善する方向で持って行けないものか。

週あたりのアルバイト時間は、10時間から20時間が最も多く、46%を占める。20時間以上アルバイトをしている学生も12%いた。

#### 4-11 病気

新潟大学に入って病気になったことがあるかという設問であるが、65%の学生104名がかかったことがあると答えている。異国の地で病気になるということは、非常に心細いことであり、寂しさを感じるものである、健康であることが留学生活にとって一番重要であると言っても過言ではない。

#### 4-12 健康状態

現在健康状態がいいと答えた学生は、64名しかおらず、あとの大部分の学生は何かしか身体に異常があるか、精神的に問題があるように思える。精神的な治療を受けている学生と、精神的に問題があるが、治療を受けていない学生を合わせると、12名の学生が精神的な疾患があるようだ。精神的な病気、つまり心の病気については、表面上はわからない場合があるので、カウンセラーや相談業務担当者がアンテナを張りめぐらせる必要があるかも知れない。

#### 4-13 保健管理センター

本学には、保健管理センターがあり、新潟大学の学生の健康状態について治療行為及び相談を受けている。ただ残念なことに、留学生の多くは、保健管理センターに行ったことはないと答えたものが103名にも達した。また行ったが役に立たないと答えた学生は18名もいた。留学生にとっては保健管理センターがほど遠いところにあるものと思われても仕方ないであろう。

#### 4-14 健康診断

健康診断でも受けたことがない留学生は90名いた。58%を占める。健康状態を自分で知っておくことは、大変重要なことであるが、受診状況が余りよくないのは、どういう原因なのであろうか。

#### 4-15 留学の理由

日本に留学した理由は、千差万別であるが、やはり専門レベルの研究をしたいが27%であ

り、日本語や日本文化を学びたいというのが26%であった。学位の取得がこれに続き、23%である。

#### 4-16 新潟大学に入学した理由

本学に留学した理由は、指導を受けたい教員がいるが33%で第一位を占め、続いて、専門レベルが高い(38%)、知り合いがいる(30%)、と続く。留学生の支援やサービスなどが充実していると答えたものは、わずか10名(6%)であった。

#### 4-17 ガイダンス

本学では新入生対象にガイダンス(オリエンテーション)を行っているが、その理解度について聞いてみた。全部出来た41名(26%)、ほとんど理解できた70名(44%)と続き、70%の学生が理解できると答えている。その反面21名の学生がほとんど全く理解できなかったと答えている。おそらく日本語能力の欠如から理解できないものと思われるが、ガイダンスのやり方を工夫しなければならないかも知れない。

#### 4-18 ガイダンスの改善点

上記の設問にあるようにガイダンスについては、多くの学生が理解しているが、やはり簡単に、わかりやすく、ゆっくり説明して欲しいという意見も多くあった。

#### 4-19 留学生の手引き

国際センターでは全留学生を対象にして(とくに新入生)、「留学生の手引き」(日本語、英語、中国語、韓国語版がある)を配布しているが、あまり有効的に活用されていない実態がわかった。100名以上の学生が、あまり使わない、ほとんど使わないと答えている。

あまり使わない大きな理由は、やはり留学生は今欲しがっている情報があまり提供されていないという点にあらう。冊子という形態なので、ホームページのように即時的な情報が提供できないという欠点が見えてきたようだ。今後の大きな課題として考えていきたい。

#### 4-20 新潟大学ホームページ

新潟大学入学前の、本学のホームページを閲覧したことがあるかどうかという設問ですが、114名(71%)の学生が本学のホームページにアクセスしたことがあると答えている。それに比べて国際センターのホームページによくアクセスしたことがあると答えたのは、25名(16%)で、たまにアクセスするは80名(52%)、全くしないと答えたのは50名(32%)であった。

改善点を聞いてみたところ、定期的に更新するが最も多かった。次にわかりやすくして欲しいが続き、英・中・韓のページを作って欲しいというのも多くあった。

#### 4-21

佐渡旅行に参加したことがあるかどうか聞いてみました。あると答えたのは、96名(63%)であり、参加したことはないという答えを大きく引き離している。参加しない理由の多くは、知らない、タイミングがよくない(日時設定の問題)、勉強は忙しいから、と続く。つまり知らないと答えた留学生は一人だけであったので、概ね佐渡旅行については、留学生からの支持を得ているものと考えていいだろう。

#### 4-22 奨学金

現在奨学金を受給している留学生は、126名（80%）にも及んでいる。今回このアンケートに協力してくれた多くの留学生は奨学金を受給して、あまりアルバイトもしていない、比較的恵まれた留学生であることが臆気ながらわかってきた。受給額も月額8万円以上と答えた留学生は76名いた。

授業料の免除については、全額免除の学生は50名（32%）、半額免除は68名（43%）であり、合わせて75%の留学生が何らかのかたちで免除を受けている。ただ25名の留学生は申請したが許可されなかったと言っており、又この制度を知らない学生も15名いた。おそらく短期留学推進制度で来た学生や、交換留学の学生にとっては知るよしもないことであろう。

#### 4-23 新潟大学に関する情報

新潟大学に入学する前に、大学の情報を収集しましたかという設問には、130名（85%）の留学生が何らかのかたちで、本学の情報を入手したことがわかります。インターネットや知り合い、先輩からの情報がその大部分を占めています。

#### 4-24 来日前に欲しい情報や準備

日本に来る前に、どんな情報や準備があった方がいいかという設問では、留学生に対する支援及びサービスが73名と一番多く、次いで入国手続き、ビザ情報、奨学金などと続きます。授業や研究よりも、まず知りたい情報としては、留学生に対して、何をサポートしてくれるかと言うことが、一番重要なことである。

#### 4-25 新潟大学の留学生活

本学の留学生生活についてどう思っているかという設問では、学生生活に満足していると答えたのは、75名、次に日本人学生と一緒に学生生活及び研究することがプラスになっているという答えは65名であった。派遣留学生の受け入れに熱心であるという答えも45名あった。

#### 4-26 自由意見

#### 4-27 心配していること

留学生に今心配していることはありますかと聞けば、ほとんどの学生は有ると答えた。156名、実に97%である。どんな心配かと言うことであるが、勉強や研究の問題が一番多く、次いで日本の文化や習慣に慣れない、言葉の問題、研究室での交流問題、地域の人たちとの交流問題、差別問題、住居問題などと続いた。

#### 4-28 相談

困ったときに誰に相談しますか、という問いには、ほとんどの留学生は相談すると答えています。誰に相談するかということについては、同じ国の友人が最も多く60名、日本人の友人がこれに次ぎ45名、いずれにしても友人に相談するという答えが上位に来ている。本学には相談指導体制があるはずだが、留学生たちはあまり行かない。因みに指導教員は16名、国際センターの教員には15名、職員には7名しか行かない。

#### 4-29 国際課

留学生と最も関係の深いところである国際課に行きますかという設問であるが、あまり行かない、行ったことがないと答えたのは117名（74%）おり、よく行くと答えた留学生を遙か

に凌ぐ数字となっている。よく行かない理由は、場所がわからないと答えた留学生が最も多く、73名もいた。必要がないと答えたのも21名いた。

#### 4-30 国際センター

国際センターに行ったことがあると答えた留学生は、152名(93%)いた。やはり授業やその他のほかの用事で教員サイドの所には留学生は来る必要があるのであろう。ただ4-29及び、この設問で行っても助けてくれないという項目があったが、さすがにこれには誰も回答していなかった。まだ留学生から完全に信頼を失ってはいなかったのだ。溜飲を下げた。

#### 4-31 ホームステイ

ホームステイプログラムを利用したことがあると答えた留学生は、119名(73%)いたが、知らない学生や時間がないと答えるものもたくさんあった。ホームステイは地域交流の大きな柱であり、日本人社会を理解する上で一助となるものであるが、今後はより多くの留学生が参加できるプログラムでありたい。

#### 4-32 地域交流

どのようなかたちで地域の人々と交流をしてみたいかという設問ですが、野外活動が最も多く、45名、次いで旅行、日本語の勉強、家庭訪問、困ったときに手伝って欲しい、茶道や着物などの文化的交流と続く。

学生も大学の構内をであれば一人の地域の構成員として存在しているのだから、自然な形で地域の人々と交流が出来るようになればいいのだが。

#### 4-33 日本での就職

卒業後日本で就職を希望しますか、という設問には、78名(48%)の人が日本で就職を希望している。52%は卒業後母国に帰り、就職をするということなのだろう。このことは社会の動向と無関係ではあるまい。昨今の日本の経済的不況や世界的な地位の低下に伴う、他国の追い上げによって、日本市場はあまり魅力のないものになってしまった観がある。

就職情報の入手方法であるが、先輩や友人の紹介、インターネットで情報を手に入れる、大学の就職部と続くが、何もしない留学生も相当数いるのには驚いた。

#### 4-34 中越地震ボランティア

私たちの新潟県は、昨年10月に中越地方を震源とする大きな地震に見舞われました。日本全国から多くの方がボランティア活動を行い、被災者の救援活動に赴きました。新潟大学でも日本人学生や留学生がボランティア活動を行いました。これに関連する設問で、積極的に参加したという留学生は、40名(25%)いました。さらに参加したいがその方法がわからないといった留学生は、じつに110名にも及びました(68%)。留学生の被災者のために何かお手伝いをしたいという気持ちを、汲み取れなかった責任を痛感する次第です。

## 2 自由意見

Ⅲ-3 研究の指導だけでなく、どうゆうことでも相談に乗ってくれる。こんな先生に会って本当によかったと思う。／指導教授に出会ってよかった。／今の指導教員でラッキーだった。しかし、何かの理由が生じた場合指導教員を変えることが、もっと簡単であればいい



いと思う。／勉強だけでなく、生活面も指導してくれたら一番いいと思う。／親切で頼んだら必ず手伝ってくれます。ただ飲み会以外の場合でも交流が出来ればいいと思います。／熱心に指導してくれます。／親切丁寧にご指導していただいております。勉強以外のことでも相談できる間柄です。／留学生の生活、考え方など全くわかっていない。／とくに不満はない、うまく行っている。／指導を受ける学生の定員があったら、先生にとって指導しやすくなるのではないかと。多人数であれば個別指導が出来なくなり、混乱してしまう可能性が大。／自分が気づかないところをわかりやすく説明してくれます。／先生との関係もとてよくて、指導方法もいい。／先生とはいい関係である。／あまり自由でない。緊張ばかりしている。指導は熱心ではない。外国人に対して偏見を持っている。／先生との関係はとていい。研究上、励ましてくれたり、助言をしてくれる。指導方法も穏やかであり、進取の精神に富んでいる。／指導はとてよい。／先生は私の研究や生活に関心も持ってくれている。／授業の時以外、特別な関係はない。私が日本語が出来ないから、交流は不便である。／日本に根拠のない留学生にとって、指導教員はとて頼れる存在だと思う。／仲良くやっています。／専門について、熱心の指導していただいて、日本語の論文の書き方まで教えていただいています。心強い存在だと思います。／先生はとて親切です。関係はいいです。／先生とはあまり会わなかったが、困ったときに、いつも助言をしてくれた。先生の熱意を感じる。／とて親切で、ほとんどの相談に乗ってくれます。役に立つ意見も教えてくれます。／日常生活の困り事や日本語のチェック（論文やレポート）をしてけるとありがたい。／もっと詳しく指導して欲しい。／関係はうまく行っていると思います。／満足しています。／満足しています。とて親切で二年間のゼミは良かったと思う。／先生とはよく会わないが、力になっていると思う。／会社と大学の差を知らない。／先生は忙しいようですが、もっと指導して欲しい。／心強い。／

Ⅲ－５ チューターが付くのが遅かった。去年４月に入学して、去年１０月からチューターが付きましました。／研究のことなども見てくれる。英語が話せて学生を信用してくれる人がいい。そして学生よりも年上の方がいい。／チューター制度は、日本での生活方法を理解するのに役立つ。しかしチューターはそれにふさわしい人でなければならない。／とていい制度だ。学生とチューターがいい関係を作れたら、この制度はうまく行く。私のチューターは完璧にチューターの仕事をした。又責任感のある人だった。／一年の時チューターがいましたが、全然役に立たなかった。自分が指定したり探したりする方がいい。／日本にいる時間にもとずいてではなく、日本語の言語能力について必要な留学生にした方がいいと思います。／すごくいい制度だと思います。留学生の勉強や生活に役に立つと思います。／利用しやすくして欲しい。／チューターは一年間ごとではなく、入学してから卒業まで留学生を指導した方が安心感が生まれる。チューターの選考をもっと厳しくして欲しい。やる気のないものが多い。／日本語のレベルの低い学生に手助けして欲しい。／日本語の先生をつけて欲しい。／実効のある制度でなくてはならない。／学識が豊かで、研究であり、ユーモアもある。いつでもよく面倒見てくれる。／指導がよければチューターはいらないのではないかと。／責任を持って仕事をして欲しい。／チューターがいなかったら、問題に出会ったとき、解

決してくれる先生が必要だ。／前はチューターがいたが、あまり必要性を感じなかった。あまり役に立たなかった。／チューターの助けで、日本の生活に慣れてきました。／自分が気に入ってる専門分野の人が欲しい。勉強、研究の相談には、同じ分野の人じゃないと相談が出来ないと思います。／この制度はとくに留学生にとって、勉強及び日本での生活に欠かせないものだと思います。迷うときとか、悩むときに教えてくれる人はいないので、役に立ちます。／学校外の人をチューターに出来ればいいと思う。／全く知らなかった。あれば利用したい。／チューターがいましたが、あまり役に立たなかったです。チューターはお金をもらえるので、責任感のある人ではないと出来ないと思います。／最初の時には必要だが、今はもういらない。／日本に来られたばかりの方にはおすすめですが、一年以上日本に滞在した方にはあまり必要はない。メリットがないと思います。／チューターがいることは知らなかった。それについての情報が少ないと思う。／一緒に日本語を勉強する機会があればもっといいと思う。

Ⅲ-7 仲良くやっています。／やっぱり日本の生活になれるには友達を作るのが一番！とても親切で丁寧。／友人は日本を学ぶには一番いい。／とてもはずかしやだが、誠実で手伝ってくれる。／とても優しくて付き合いやすい。／深い付き合いが出来ない。／日本人の学生は私費留学生のように、忙しく貧しい留学生と友達になりたくないと思う。／日本人の友達との関係は、気軽に相談できる雰囲気を作ってもらってますので、精神的負担も軽減しました。／日本人が思う本当の友達と、中国人が思う友達が違うと感じた。／もっと日本の友達が欲しい。／相談したり、されたりという関係にはなかなか出来ないと思います。／中国人に対しては、偏見を持っているように思えないが、多くの日本人は、心を閉ざし、冷淡で傲慢である。／日本人は礼儀正しいが、熱心に援助してくれない。傲慢である。しかし交流が進めば友人になれるかも。大多数の日本人は誠心誠意友人になるきっかけはない。／新潟大学はいい大学なのに、大学生はどうして勉強しないのか。(日本人学生は)表面上あまりうわべだけだと感じないが、実は心を閉ざし、冷淡である。／日本人の友人は、もっと日本の文化、日本語を学習して欲しい。／日本人と友達になる機会が増えるといい。／私は思うには、日本の学生はとても良くて、善良である。／価値観の違いもありますが、政治などの敏感な話題について、出来るだけ避けるようにしています。互いに生まれ育った環境を考慮し、互いに尊重し合うことが非常に大事です。／日本人の友人とは仲良く付き合っていますが、たまに日本語が通じないときは、英語の言葉を出したら、友達は困る顔をしていた。私も困りました。／もっと積極的に自分の意見を述べて欲しいです。／国の違いがあるので、どのように付き合っていけばよいかわかりません。／勉強よりは身近な話題をする人が欲しい(テレビとか、最近のニュースとか)。／気軽に遊んだりするのが難しい。なんか考え方や生活習慣などが違う。／深く知り合うことが難しい。／日本人の友達は何人かいますが、お世話になってありがたいと思います。勉強だけでなく、生活の面での助けてくれました。／優しい心を持って接すれば、国籍とは関係なく友達になれる／深い友人関係を築くことは難しい。／ぶんかや国は違うが、いろんなことを共有していると思う。考え方や文化など、帰国しても友達になろうと思う。／留学生として、日本人の友達みたいに毎日ゆっくり

した生活が出来ない。いつも時間が足りない気がするので、一緒にする機会が少ないので、残念です。／日本に来る前と考えが違った。個人的で本音は言わないと思ったが、ここの友達はみんな優しいし、いい人だと思った。／

IV-26 私の研究はとても忙しいし、日本語が余り上手ではないのでアルバイトが出来ない。だからすべての私費留学生に奨学金を出して欲しい。／私の部局には日本人の学生はいない。／奨学金の申請のことは難しい。／日本語教育を専門にしたい学生がたくさんいるし、専門家としていい先生がいるのに、まだ大学院コースがないのはどうしてでしょうか？（国際センターに）／もっと国際化に発展して欲しい。／学生は親切でいつも手伝ってくれるが、研究についてにお意見交換などは難しいように思える。／学部の学生は勉強に興味がない。大学院の学生は興味があるので、彼らとコミュニケーションをとるのはおもしろい。／日本人の学生たちはもっと勉強すべきだ。／毎日同じ教室に座って、一緒に勉強していても本当のメンバーになるのは難しい。日本人学生は一般的に親しいが、心は閉ざしている。自分たちの方がいいと思っている（本当はそうでなくても）。／教務課は本当は学費免除をさせたくないと感じた。就職のためだという証拠を持って行ったがダメだった。辛かった。／たくさんの留学生の面倒を見なければ、私費留学生を少なくすべし。／日本人学生にも分別ゴミの教育が必要。地域によってゴミの分別が違っているので、新大周辺のルールがわかっていない学生はたくさんいる。／日本語教育を学ぶ人のための修士、博士課程があったらいいと思う。／一部の日本人学生は非常に熱心に助けてくれます。／日本人の学生はよく努力をするし、又親切である。／日本人学生はよく援助してくれるし、礼儀正しい。／大学は留学生にもっと実際に適応したサービスを提供して欲しい。／学生は良く規則を守り、自律している。／大都市の大学に比べて、留学生数も少なく、みんな友好的でよいと思います。／全体的に穏やかな雰囲気包まれていると思います。／生協の人はとても親切で、本当にお世話になりました。／工学部の研究施設は研究のためには物足りないと思いました。／いろいろなことにもっと真剣に考えて欲しい。／図書館の書籍が少ないです。研究室にある図書を借りることが出来ますが、教授も忙しくて、探し出せないし、自分も何回も教授のところに邪魔できないし、なかなか借りられません。／奨学金をもらえず、生活に困っています。／深く考えたことはないけど、日本人学生は留学生と友達になりたいと思っているのかどうかよくわからないところがある。／勉強するのは結構まじめだ。困るときに助けてもらえば良かったと思う。／先生たちは優しくしてくれました。／奨学金制度についてよくわかりません。／コンパやり過ぎ。みんな目標があり頑張りやさんが多い。／スポーツクラブの支援は多いが、ほかの部活に関しては支援がないそう。学生のための建物があるならいいと思う（部活用）。／留学生と日本人学生の間に交流するチャンスを作りたい。／新潟大学はいろんな国の人を受け入れて国際化大学だと思う。／みんなアルバイトで忙しいです。でもあまり勉強しない。

IV-35 たくさんのいい経験があるが、このスペースで説明するのは難しい。／よい経験。／新潟の人は私の国の人と余り変わらない。／書類を書くとき英語で書かれていないので、うまく書けなくて困ります。英語も書類の中に書き入れてもらえると外国人にはよくわ

かる。／何人かの新大の人々は留学生とすばらしい関係を持っているが、多くの学生は違う。文化はすばらしいが、余り厳格になりすぎてはいけない。人々はオープンでなければならない。／私はよい友人を見つけることが出来たし、日本で研究や生活を楽しんでいる。／半年しか過ごしていないが、日本の人たちと交流していい経験をした。／リュックサックを電車の中で盗まれた。／私の研究室では男性は誰も私に喋りかけない。男性たちは私を必要としていないんだなあとと思う。／私の唯一の問題は、人々が何を言っているのか理解するのが難しいことである。私の指導教官は私を召使いのように扱う。私を共同執筆者には入れず、研究論文を書かせたり、手伝わせることは不公平だと思う。指導教官は私を指導しているというのだが、私は単に使われているだけだと思う。／ホームステイやお祭りに行ったことが印象深い。／新潟の生活ではよい経験がたくさんある。町はきれいだし、人々は親切だし、そして治安がいい。／研究プログラムの内容は私は思っていたのと違っていた。／みんな私が結婚したことを知ったらびっくりしていた。／私にとってとてもいい経験をした。／いい経験をした。／日本で不快な経験はない。いい経験もあったが、其れについては十分話せない。／よい経験だけ。／新潟の冬は荒れるが、全体として研究に適した場所である。／ホームステイや小学校、高校での交流活動は一番よかった。／新潟は外国人には友好的であるように思う。ここに住んでトラブルはない。人々はいろいろ手伝ってくれる。／悪い経験は、自分の日本語能力不足のため、日本人を誤解したことがある。いい経験は、山古志の人々を励ますボランティアに参加したこと。／教会に日本人の友人がいるが、英語でだけしか話さない。／日本人はとても親切だと思う。新潟は私が勉強するのにとても便利だ。／私の部局の日本人学生はとても好意的である。／たくさんいい経験をした。これは親切な日本人のおかげである。しかし残念なことに、とても悪い経験もある。自分の不注意で助教授が私に肉体的なセクハラをした。／2005年1月に2台の自転車を新大駅前で盗まれた。／不快なことは、気候。英語を話せない人が多いので、自分の希望を言えない。いいことは、怒っていても礼儀正しい。／日本人はとても親切だが、英語でコミュニケーションがとれない。／将来のために自立したい。／本音でコミュニケーションをとるのがとても難しい。そして日本人は外国人が外国人が関わって、何かが起こったりすると怖がっているように思う。／すべてのルールにいつも例外があることを理解しなければならない。私たちは何の権利もないように思う。／病気の時、一人家にいるのが寂しかった。／日本人の学生（とくに工学部）はちょっと冷たいような感じがする。／旅行に行ったときに、国によって派閥が出来る現象があったが、先生たちは知らぬ顔をしていた。学費免除の教務課の人たちは親切ではない。／時間が足りないと思う。授業も多いし、アルバイトもあるし。／日本人の学生は親切だが、何となく親友にはなれないと思います。／日本人が必要以上に優しくしてくれること。／留学生に対するアパートの貸し出し拒否の実態。分別ゴミに対して一方的に留学生のせいにする。国際課の国際化が必要だと思う（事務）。／新大での留学生活はだいたいよかったけれど、ただ少数の日本人学生と先生は、外国に対する偏見を学生まで持ち込んでいやな思いをしたことがあります。それはやはり相互理解が必要だと思います。／相手の気持ちがわからなくて不愉快なことになりました。／自分でしなければならなかったのに、時々

どうすればいいかわからなかった。／そもそも文化が違うので、戸惑ったり、違和感や不愉快な気持ちを感じたりするのは当たり前だと思う。同じ国の出身の人でさえたまには同じ気持ちになるから。原因はないと思う。それぞれの人格かな。／新潟は静かな町だと思う。／私はムスリムの女性で頭をスカーフでかぶっているせいか、なかなかバイトは出来ませんでした。これは差別だと思います。／図書館の時間を長くして欲しい。私費留学生のための奨学金が少ない。／言葉使いが悪かったり、又はニュアンスの違いにより、知らないうちに人に誤解されたことがあった。／今まで日本人は自分の意見を言うとき、とくに自分の言ったことによって相手が傷つかないように心がけると思っていました、そうでない人に何人か会ったので戸惑いがありました。／日本のお年寄りの人はとても優しいが、先生たちはとても厳しいと思います。／自分の直接的な言い方で、日本人たちはよく惑う。／同じ留学生であるのに、国籍が違えば、接してくる日本人の態度は明らかに違うこともあります。少しショックを受けます。でも更に頑張ろうと思うようになったり、刺激にもなります。／日本人及び日本語のあいまいさが時にどう理解していいかわからないときがある。／中国と日本は隣国であり、歴史を鏡とすべきである。共に美しい未来を作り上げよう。／不愉快なことは、日本人はあまりにも傲慢すぎることである。友人の話によれば、一人の日本人はびっくりして言ったそうだ。「アメリカにもマクドナルドがあるの?」と。このことはに日本人の無知と傲慢さを表わしたものであろう。／困難なことは言葉が通じないこと。時間が経つと解決するだろう。／授業科目には、全く得るものがないものもある。／いろんなことが気になるのに、納得いく答えを聞いたことがない（質問に対してきちんと答えてくれない）。／パーティなどを通じて日本の伝統文化を知ることが出来た。／英語の出来る日本人といい交流が出来ましたが、しかし、ほとんどの日本人学生は余り親切ではなく、とくにアジアからの留学生を差別する傾向がある。／日本人は親切で丁寧で、私たちの家族を助けてくれました。／友人を作るのがとても難しい。／私の傍に座るのを避ける人たちがいる。ある時、白山公園の近くの橋を渡るとき、ある女性が橋を渡ろうとしているのに、私に気がついて、橋を渡らなかった。／日本人の先生や友人とホームステイ先のホストと一緒に交流が出来るのはいいことである。／国際センター（事務）で英語の話す人が欲しい。／地域の人たちの交流の参加したことで、わかったことは中年以上の独身男性は留学生との交流を通じて結婚相手を探しているようだ。これには反感を覚えた。／

IV-36 韓国と一番近い国である日本をもっともっと知りたい。国際交流に役立ちたい。日本と関連ある仕事に就きたい。／留学は考え方を広くし、地球市民として成長する。／留学はキャリアのために役に立つ。／新大でもっと勉強することは、ドクターへのステップとなる。／新大はだんだん国際大学になってきているので、外国人が必要なインフォメーションは英語でも書いて欲しい。／科学や文化について、海外で勉強できる経験は好ましい。／日本での研究が自分の国でいい仕事を見つけるチャンスになるように願っている。／将来修士課程を卒業後、有能な資格を得て、就職すると思う。／たくさんのリサーチファンド、奨学金が欲しい。／英語による授業をたくさん増やして欲しい。／外国留学は学生にとって最もよい研究、勉学の経験を与える。そしてそれは将来のキャリアに役に立つ。／新大でのす

べての経験は我々の将来に役に立つものである。／新大での勉学、研究生活は、私の今後の研究生活に大きな刺激を与えてくれた。／外国人留学生に対する支援、援助は今以上に必要である。とくに英語による支援である。大学のルール、学則などを英語で書いて欲しい。／日本で勉強したことを将来のキャリアに生かすことが出来る。／私の研究室の設備はそんなによくないと思う。多くの所中国より劣る。ただ基本的な設備は中国よりもいい。例えば水回りやガス、そのトイレには常時紙が置いてあることなど。中国に帰ったとしても、超えられないところがある。数年日本にいて、日本や日本人を理解することは、これからの交流に役立つに違いない。／日本の文化、習慣などを教えることが出来る。／日本の仕事ぶりを理解することが出来た。／マレーシアには日本の会社がたくさんあるので、そこで活躍したい。／とても役に立つと思う。／すごく役に立つと思います。／見聞が広がったから、将来選ぶ道も広くなったと思います。／言葉を生かしたい。／日中友好のために、両国のことを互いに理解したい。／留学生に対してオープンに接すること。／近代科学の知識を身につけることは、将来私の国の学生に効果がある。／人生経験だと思う。良いところもある。／バングラディシュに帰って、大学で教えたい。／将来日本で学んでいいことを私の国にもたらしたい。／日本人学生は英語でもコミュニケーションはうまくできる。／自分の国で留学で学んだ経験や知識を使うことが出来る。／新大図書館には英語の専門書は少ないが、私たちは英語で授業が受けられる。／とてもいい経験だった。招待の研究に、ここで習ったことを活用するつもりである。私は自分の仕事が、日本と関連する仕事だったらいいと思う。／外国で勉強することは文化的、科学的交換だと思う。／役に立つと思う。／よりよい就職。日本は私の国ではとてもよい評価になる。／たぶんいい経験になると思う。／留学はネットワークを作り、又知識や技術を増やすことになる。／それぞれの学部で英語でもカリキュラムがあり、それは留学生にとって役に立つと思う。／日本では研究の機会を得た。私の研究は国に戻ってから学術的な活動を続けるきっかけとなる。／留学してから日本と日本人について理解を深めた。日本人に好感を抱いた。将来中日友好のために努力したい。／日本語能力を使って就職したいと思う。／世界観、人生観の見方について大変役に立った。／日本で勉強した意識が中国の発展に役に立つ。／日本から学んだことをマレーシア社会で教え、日本社会が欠けている部分を日本人に教えるつもりです。／国に戻って大学の先生になり、日本の文化、文学を広げたいです。／私の宝物になると思う。／来たときからずっとこの問題を考えている。でも今まで答えることが出来ない。／今従事している研究をやり続けたい。／何でも挑戦することが出来ると思う。／日本での留学は、将来アメリカへの留学に非常に役に立つものだと思う。／将来国に帰ったら、大学または研究所に勤めたいので、日本の活発な教育方式、例えば、研究室中のセミナー活動など、又情報交流を重視したり、厳密な考え方は、今後の研究生活に役に立つものと思う。／視野を広げ、国際理解教育の研究は、将来自分が教育に従事しても自信を持ちながらやっていけると思います。／生まれて初めての留学生活なので、いろんな面で成長しました。／自分の国では経験できないことがたくさんあり、人間的には成長したと思う。／将来の就職にプラスの効果がある。／日本人とビジネスの仕事がやりたい。／日本で身につけた知識を活用したい。／考え方が

広くなった。国際的感覚も身に付いたと思う。／留学の経験は将来の人生に対してプラスになると思います。これからどんな困難に直面するとしてもやっていけます。どんな人とつきあうとしてもうまくやっていけます。／自分を信じれば異国でも成功できる。自信を持って頑張ることが大事。／自分の所見、所感を台湾の人に伝える。／今回の留学は私の人生そのものを変えました。／日本に来て初めて一人暮らしをしますので、人間的に成長できると思います。／いい経験になる。／いろいろな知識を身につけて、国際性の人材になりたいと思います。よく勉強するだけでなく、様々な活動に参加したい。／明るい未来だと思う。／就職するときになんか長所があるんじゃないかなと思う。／

私の人生がこれから変わると思います。／いろいろな面から見ると、日本に留学してよかったと思います。ただ勉強の面は満足度が100%でないから、ちょっとだけ悔いが残っています。／日本で身につけた知識を実際の国の科学に活用する。日本での体験が日本とも交流に生かせる。／日本語能力と専門知識が十分に役に立つ。／日本に関係する仕事に従事したい。／今回の留学は私にとって一生の貴重な経験だと思います。日本に対する理解が深くなった。帰国後の生活にも仕事にも役に立つ。／就職、進学に役立つと思います。／今回の留学を通じて、いろいろ勉強できて、自分的には大きく成長してきたと思う。／帰国後、日本の文化と日本人の友情を中国の人々に伝えて、今の研究を続けてよりよい社会や国際交流に貢献したいと思います。／将来日本語教師になりたいと思っています。教える側に立ったとき、学習者がどんな点に困っているかというところが少なからわかったような気がします。帰国後ここで得たものを、生かしていけるように務めることも大事だと思っています。／留学生活はとても難しい。／よい職に就くことが出来なくても自分は満足している。／私に大きな影響を与えている。／日本の文化にはすばらしいものがたくさんあります。それを母国の若者に紹介したいと思います。又日本で鍛えられて逞しくなった自分は、困難に立ち向かうことが出来ると思います。／学校の先生になって若い世代にしっかり教えていきたい。／将来の研究に積極的に影響を与える。／専門の知識を勉強した上で、一人で自立して生活することにより、自分をもっと成熟した感じがする。／これからも海外で勉強したり、仕事したりしたいので、今の経験が、今後外国生活で困ったときなどに、大きな力になると思います。／自己を鍛え、視野が広がった。／サポートのおかげで、知識を高めることができ、本当に日本を理解することができた。又日本人の品行など優れた点を学ぶことが出来た。／人生経験を広げることが出来た。／国内では学ぶことが出来なかったことを学ぶことが出来た。日本人は非常に真面目に事を行う。これは私が学んだことである。／多くの助けがあり、多くのものを学んだ。もっとも学んだものは、人類の道具の一つである言葉、日本語である。／多くの知識を得た。人生経験が広がった。日本人と日本文化を理解した。将来中日の医学の交流に貢献したい。／日本文化を理解し、日本語をマスターした。今後中日友好のために尽力したい。／このたびの留学は私にとって大変な経験でした。10年仕事をして、又新たに勉強しました。国内ではこの年齢の女性はおそらく勉強なんか出来ないであろう。／非常に大きな経験。／最大の経験は日本語をマスターできたことです。日本の文化や習俗は基本的には理解しました。可能ならば今後の仕事に役立てたい。／日中友好のために

働きたい。／

IV-37 新潟大学はもう少し留学生を受け入れて欲しい。／国際的なイメージと考え方を共有する。／新潟大学は我々にいろんな影響を与えた。／留学生に適している大学だと思う。／新大は勉学にとっては、場所としても、人としても、物としても一番いい大学である。私たちはこの大学を忘れない。／留学生にとっても影響がある。／学生によいアドバイスをしたら、留学生たちは喜んでここで勉強すると思う。／留学生は新しい物の見方を持っていると思う。つまり世界にはいろいろな見方があるということだ。／新大は、研究・健康・日本語などで留学生をサポートしてくれた。／新大は留学生にとっていい大学だ。／学術的な専門分野に進むことが出来たので、将来の仕事に自分の知識や経験を生かしたい。／この質問に答えるのは私には早すぎる。／新大や新潟市は勉強するにはいい環境だと思う。主な不自由さは、コミュニケーションの問題である。／すばらしい。／印象的。／いい影響を与える。／留学生全員のことについて言えない。／効果的。／十分な影響を与えると思う。／精神力と頭脳を育てる。／よい影響を与えると思う。／国際交流会館の多目的ホールでのパーティやイベントは友人関係を作るのに重要だと思う。／新潟に戻って来たくない人もいる。／国際的に役に立っていると思う。／国際交流に影響を与えた。／国の文化交流が出来る。／国際化した。／本人の自尊と自愛及び自強を敬い、処すべきところである。／新潟大学はいい大学だと日本人はよく言う。／新潟大学には多くの国から留学生が来ているので、大学の多様化、国際化を今以上に図るべきである。／新潟大学の大部分はうまく動いている。しかし部局によってシステムが異なるので、全体として標準的なシステムがいる。／活動やプロジェクトを一緒にすることで相互に影響しあえる。／留学生は大学の発展と国際化に役に立ちます。／新潟大学の学生は、いろんな国の人とつきあえることが出来ると思います。外国に出なくても、いろんな国についてわかる機会があると思います。／影響が増加した。／国際交流に貢献していると思います。／文化交流と国際交流の影響が大きくなる。／留学生の意見を聞かない大学の姿勢が続くなら影響がないだろう。／国際化になるのではないかと思います。／国際交流の促進。／新潟市は国際的な町ではないと思う。それで留学生は日本人に外国人と話すいいチャンスを与えるかも知れない。でも新潟大学はどのような大学になりたいかわからない。そして留学生が多くなる方がいいかどうかかわからない。／日本の学生に外国の習慣、文化、考え方を理解させる。外国人との交流機会を与える。／日本以外の国の文化などを伝えられると思う。／新潟大学だけでなく、新潟市をより国際化にしているところはとてもよいと思う。これだけの留学生がいるのだから、もっと日本人と留学生の交流するきっかけを作るべきだと思う。／いろいろの国の人々の考え方と新しいアイデアを集めることが出来る。／日本人の学生達に国際交流と国際理解を深めたと思います。留学生の数は新潟大学の国際化に影響を与えている。／新潟大学の国際化が進む。／留学生は普通の日本人と考え方が違う場合が多い。だから新潟大学の人にはこれを見て役に立つと思う。／国際的な大学になるためには留学生の存在は欠かせないものだと思います。新潟大学にいる日本人学生に対しては、留学生との交流を通じて、外国文化をよりよく理解できる。／留学生にはもう少し頑張ってもらいたい。もう少し勉強に励んで欲しい。／多国籍雰囲気をもたらし



た。／外国をそんなに遠く感じなくなったと思います。／留学生は自分の国の文化を日本人の学生に紹介することが出来るし、新潟大学のことも自分の国の人に紹介できます。新潟大学の国際化に役立ちます。／世界を見る視野が広がる。／新潟大学は国際化大学になった。／国際化だろう。／新潟大学の実力を高めるかも知れません。／あんまりないでしょう。／もっと豊かになる。／いい影響。／留学生の数が多くなれば、新潟大学は有名になります。／外国への視野を広めたと思う。／留学生のおかげで新潟大学は国際化が進み、全国でのレベルが高まると思います。いろいろの国の留学生が新潟大学で勉強していると同時に、それぞれの国の文化、習慣も新潟大学に伝えています。活性化を促進すると思います。新大にいる日本人学生に外国の文化や言葉などを勉強して、理解していく機会を与えていると思います。／日本人から見ると、新大が国際化大学のイメージを持っているので、新大に入学希望の学生が増える。留学生は新大とその留学生の国との架け橋となる。／新潟大学の教育システムが少しずつ国際化に変わりました。先生方も留学生の存在を認めて、日本語の余り出来ない学生にも優しくしてくれました。／恵みを受けた私たちは将来必ず新潟大学にも恩返しをしようと思います。日本人の学生或いは学者との交流がずっと出来ると思います。／留学生を受け入れることは、大学にたくさんの課題を与えたものと思います。大学として、手を焼いていることもあるでしょうが、国際化が進んでいる中、留学生の存在は、ますます重要視されるでしょう。／とくに大学院では大きな支えになっていると思う。／自分の国のことを新潟大学の学生に紹介する。／少子化している中で、もっと大きな役割を果たすのではないのでしょうか。／日本人学生が身近に国際交流が出来る。／新潟大学は留学生によってさらに開放され、他国の風土、人情を理解させるようになる。／新大を更に国際化させると共に、文化交流を深める。／留学生は新潟大学の重要な構成人員である。／異なった文化を引き寄せることによって、新潟大学の国際化を豊富なものにさせる。／国際交流の促進。／新潟大学の国際上の地位と知名度を向上させる。日本文化及び新潟大学の進んだ技術を伝えることによって、新潟大学を国際化の方に推し進める。／新大を世界に知らしめると同時に世界に新大を知らしめる。留学生はこの橋渡しの存在である。／各国の留学生に自国の文化知識を日本にもたらす。／国と国の間の理解と交流を深める。

／国際化が進んで行くに連れて、これから新潟大学も留学生の数が増えていくと思います。留学生が専門を学び、日本文化に慣れていくための、よりよいサポートが大学の方に必要になってくると思います。／

IV-38 もっとイベントがあると、日本について詳しく知ることが出来る。／ボランティアグループの協力。／日本人の学生はとても訓練がなされていて、頭がよく、多くのイベントをうまくやれる。しかし時々英語が出来ない。／留学生に提供できるサービスやアメリカやヨーロッパなどの生活について勉強して欲しい。そうすれば違いの大きなことに気づき、日本で暮らすのが大変なことがわかる。／新大と私の国の大学が研究やその他のことで、協定を結ぶチャンスはあるだろうか。／個人的な意見だが、新大はとても広いので好きだ。／多くの先生方と英語で話したい。／ホストファミリーの組織化。／大学のホームページは日本語日母語者にもっと親切であるべきである。／国際課は留学生に好意的な態度を取って

欲しい。少なくとも留学生がオフィスに入ってきたら「こんにちは」と声をかけて欲しい。  
 / 大学は時々留学生と日本人学生を会わせるような企画を持つべきである。/ とてもすばらしい。  
 / 大学のボランティア活動は益すること大である。国際交流会館のインターネット接続については満足ではない。国内の学生よりも留学生はインターネットの情報を入手し、母国の家庭に連絡する必要は多いと思われるから。  
 / 国際的な環境が必要である。  
 / みんなが留学することが大切だと思う。  
 / 友好的な環境は必要である。  
 / 国際交流会館の多目的ホールでの音楽を許可して欲しい。ほかにどこで学生達はパーティを楽しむのか？  
 / 図書館にコンピュータが少ししかない。英語で使えるコンピュータやプリンターをもっと増やすべきだと思う。  
 / 英語や中国語または他言語の翻訳があれば本当に助かると思う。少なくとも国際課や国際センターのスタッフは英語でコミュニケーションが出来るよう勉強すべきだ。また留学生と日本人との活動は励まされる。  
 / ホストファミリーはコンピュータを使って協力していった方がよい。  
 / 新潟の生活は楽しいが、問題はコミュニケーションである。なぜなら英語は余り話されていないから。  
 / 食堂の食べ物を安くして欲しい。  
 / 他の大学より競争力が上がって欲しい(知名度など)。  
 / 国際センターの教員及び職員は留学生に優しい心で接して頂きたい。  
 / 私に友達はアルバイトのことで困っているの、よかったら学校からアルバイトの先生を設置して留学生にアルバイトを紹介して頂けませんか？  
 / 研究に必要な最低レベルの条件になっていない(経済学部)。支援ボランティアの組織化が必要。  
 / 日本の悪口ばかり言う中国人が、高額奨学金がもらえることに理解できない。  
 / 国際交流会館の多目的ホールの利用が厳しくなり、交流の場が少なくなった。ならば、国際課主催の交流イベントを企画して欲しい。  
 / これからも日本語教育に関心を持つ人が増えると思いますので、そういう人のために、国際センターに修士・博士課程が設けられたらと思います。  
 / ボランティア活動の組織化など。  
 / 新潟大学が更によくなることを望みます。  
 / 医学部の交流活動を増やして欲しい。  
 / ボランティア活動は多くの私費留学生に対して行われるべきである。  
 / ボランティア活動は私費留学生達に向けて組織されるのではなからうか？  
 / 留学生の活動の情報は公平であることを望みます。2月のホームステイやスキーの情報はホームページ上に公開されていなかった。  
 / 更に留学生と日本人学生との交流活動を深めて欲しい。  
 / ボランティア活動はもっと多く、窓口ももっと多くして欲しい。  
 / 全体的に他地域に比べて、留学生対象の情報が足りないと思う。ホームページを見ても、まだすべてのメニューが完成されていないし……。  
 / 人と人の出会う場所、チャンスをもっともっと作って欲しいです。  
 / 留学生にまつわる情報を速く、且つ効果的に発布すること。  
 / 支援ボランティアの組織化することを願います。  
 / 地域との交流。  
 / 新潟大学とは直接に関係ないですが、20歳以下の留学生は携帯電話を買うことが出来ないの困りました。何とか出来ないですか？  
 / 留学生と地域の人との交流イベントをもっと増やす。私費留学生のための奨学金が少ない。佐渡旅行、スキー講習のようなイベントを増やしたいと思います。  
 / ボランティア活動に関する情報が少なく、参加したくても仕方がありません。留学生の旅行先も佐渡だけではなく、ほかの所も考えて欲しい。よりいろいろなところを見たいです。  
 / これは希望ではあるが、「a」から教えてくれる英語の授業は出来ないかな。日本に来て初めて外国人とのつきあいに

英語が必要かなと思った。日本語が出来ない外国人もいるので。ホストファミリーとの交流がなかったので、一回ぐらいい交流してみたい。／医学部は遠いですから、いろんな事を知らなかった。／支援ボランティア組織を見つける情報が欲しいです。／部屋探しの情報とその方法。／ホームページの内容の更新。／チューター制度を活用すべきだと思います。／留学生達を組織してサークルを作って、スポーツをすることが楽しみになる。／今の留学生のレベルが低すぎると思う。何か対策はないのでしょうか？／土日祝日など休みの日、春休み、夏休み、日本人は自宅で気持ちよく勉強できるし、インターネットを使うことが出来ます。学校の図書館が閉館すると、外国人学生の勉強場がなくなります。インターネットを利用できなくなる人が多いです。／新潟大学からの情報が少ない。いろいろな情報（Homestay, event…）を知らせてくれたらもっといいと思う。／留学生寮が足りない。／図書館の本が古い。／修士以上の人に、一人ずつパソコンをつけて欲しいです。／物価が違うため、留学生（私費）は、学校からの経済支援が要ります。経済的な困難は大学での勉強に大きなマイナス影響を与えます。／ホームページに学校近くのアパート情報、留学生向けの就職情報などあったらいいなと思う。／図書館の施設の補充。／授業料の減免。経済的負担を軽減されたら、勉強にもっと集中できる。／もっと日本語の授業を主催して頂けますか？今週に3つあるからちょっと少ないと思う。／留学生に日本の生活習慣や風俗を教えてくれる授業があって欲しいです。／これからもっと発展成長する大学になりますように。／渡日一時金の支払いが遅すぎる。出来れば国際センターが留学生にどのようなプログラムを提供しているかを知らせなければならない。しかもその連絡は英語でやらなければならない。／日本語教科書は「元気2」を使うのがいいと思う。プレゼンテーションに使う時間を少なくして欲しい。言語と文化に力を入れて欲しい。／表面的な交流でなく、もっと高いレベルでの文化的な交流をして欲しい。

### 3 おわりに

留学生を取り巻く環境は国費留学生と私費留学生とでは余りにも違いすぎる。この違いは一体どこから帰因するのかわからない。ひょっとすると運の良さだけかも知れない。私費留学生にとって多くの不満や憤りは国費留学生は恵まれすぎているという一点にあるようだ。国費留学生は余り勉強をしないということなのか。検証をする必要があるだろう。

今回このアンケートを通じて見えたことは概ね日本の生活や新潟大学での研究、教育体制、大学の留学生への支援体制などには満足しているということが見えてきた。ただ個別にはさまざまな問題も存在していることも承知している。見えてこなかった点は私費留学生からの回答がおおよそ半分であったので、私費留学生たちの生の声がなかなか伝わってこないということは残念なことであった。我々留学生に接するものにとって最も大切なところは私費留学生に対するケアができているかどうかというところにあるからである。言葉の問題、習慣などによる戸惑い、差別などのある中で、生活し、勉学するということは並大抵のことではない。異文化間の理解への対応もまだまだ不十分であると思われる。人間は社会的な動

物であるので、勉強や研究だけで留学生活をおくることはできない。日本の社会の中に溶け込む必要も出てくることだろう。ただそういうのが苦手な留学生も多くいることだろう。日本の社会に溶け込む過程の中で多くの困難と遭遇し、それを克服することで異文化を理解することができるはずである。我々の仕事はその橋渡しをすることであろう。

(付記) 国際センター発行の『アンケート調査報告書』はまだ少し残部がありますので、入り用の方は国際センター柴田幹夫までご連絡下さい。